

よさのうみ福祉会 広報誌

きょうと福祉人材
育成認証制度



2020年
5月1日
No.115

福祉よさのうみ

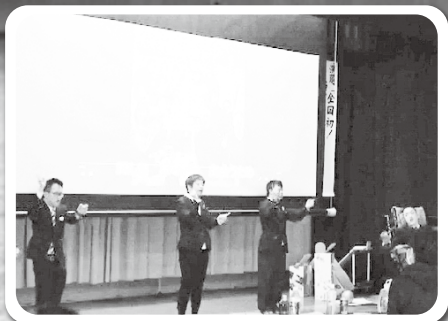
〈発行〉社会福祉法人 よさのうみ福祉会 〒629-2314 京都府与謝郡与謝野町字岩屋600-6 TEL 050(3532)0601 FAX 0772(43)0606

障害のある人のゆたかな地域生活の実現を! URL <http://www.yosanoumi-fukushikai.or.jp>

第6回生活訓練「学びの場きらり」実践報告会



発表する朗さん



手話歌「命の理由」



「やってよかった!」

感動の実践報告会

障害児(者)多機能型生活支援センターむ

支援員 糸井公美

3月1日、第6回目となる「学びの場きらり実践報告会」をおこないました。

今年度の講演は、全国の学びの場の先駆けとなった和歌山県ふたば福祉会「フォレスクール」の立ち上げに奮闘された出口幸三郎氏に依頼し、学びの場の原点にある親御さんの思いや願いに立ち返る貴重な時間となりました。

「きらり」の朗さんは3年間の中で成長していく自分の姿を振り返り発表しました。自分の言葉で伝える成長ぶりは聞く側の心に響き、心温まるものでした。「大好きなお母ちゃんに感謝を伝えたい」と得意の歌とマイクパフォーマンスも披露し、サプライズでお父さんが書かれた「親の心子のココロ」が読まれると朗さんも涙ぐまれ、会場全体が感動に包まれました。

皆で発表した手話歌「命の理由」は「京丹後市ほつとはあと製品展」で京丹後市障害者福祉課が披露されたものを観て、自分達もやってみたいと出前講座を依頼し練習を重ねてきたものです。本番では、スクリーンに仲間の生い立ちムービーが映し出され、訓練生・職員と京丹後市障害者福祉課とのコラボレーションが実現しました。

緊張と感動の中、訓練生、家族、職員全員がたくさんの方々に支えられ、見守られていることを改めて感じた報告会となりました。

歓迎の春

はあいにく新型コロナウイルス感染予防のため
凝らした式で歓迎の気持ちをあらわしました。



「少し緊張気味です…」
ゆうゆう作業所



「がんばるぞー！」
与謝野エリア合同入所式



「みなさんよろしくお願いします」
みねやま作業所



「お祝いの花を受け取りました」
ろむ

みねやま作業所

管理者 村上 健一

二人の新たな門出

今年度は、よさのうみ支援学校から2名の仲間を迎えることができました。当日は2名の仲間のお父さん、お母さん、妹さんに加え、支援学校の先生、支援センター結の相談員を迎えました。2名の新入所者は少し緊張気味でしたが、仲間や管理者の歓迎の言葉、ご家族の思い、先生や相談員のご挨拶が進んでいきました。

次に、皆さんが一番楽しみにしている歓談の時には、作業所手づくりのおいしいケーキとあたたかいコーヒーに大歓声で、温かくたのしい入所式となりました。



峰山共同作業所

管理者 山口 高志

三名の新人を迎えて

昨年度途中から入所された2名とこの春によさのうみ支援学校を卒業された1名の計3名の方の新たな門出を祝うことができました。「作業所での仕事を通して経験を積み、自信をつけて一般就労をめざすぞ!!」「仲間や職員と楽しく過ごし、これからの人生をより豊かにすごしたい!!」「仕事もがんばりたいし、大好きな歌もうたいたい。やりたいことがいっぱいあるぞ!!」それぞれの思いを胸に、峰山共同作業所の一員として、未来に向かって元気に羽ばたいていきたいと思います。



新入所者

各事業所で入所式がおこなわれました。今年は規模を縮小したところもありましたが、工夫を

ゆつゆつ作業所

管理者 佐々木 明雅

夢に向かって出発進行

2名の新しい仲間がピシッとした装いに、緊張した面持ちでしたが、紹介では元氣な返事に会場からは大きな拍手が起こり、温かく、笑顔いっぱいに入所式となりました。

ろむの仲間もお祝いに駆けつけ、これまで苦楽を共にした仲間の新しいスタートに心温まるエールをいただきました。

新たに2名の仲間が加わり、ゆつゆつ作業所は20名になりました。一人ひとりがキラキラと輝く夢実現に向かってゆつゆつ作業所、いざ出発進行!!



障害児(者)多機能型 生活支援センターろむ

管理者 山本 優子

三人娘来る!

今年の仲間は女性3人。初々しいスーツ姿。胸にはとまと班手づくりのお祝いコサージュ。来賓には3人を温かく見守るお母さん方。

改まった式はどちらかといえば苦手と聞いていた3名ですが、緊張や恥ずかしさと闘いながらしっかりと式に参加されました。決意表明、お母さん方の想いのこもったメッセージ、全員合唱など人数は少ないけれど温かいっぱいの入所式となりました。

さあ、これからろむの仲間と、泣いたり笑ったり真剣に頑張ったり、一緒に過ごしていきましよう。



与謝野エリア

野田川共同作業所 管理者 杉本 実信

新たな七名の仲間

与謝野エリアではつむぎに2名、野田川共同作業所に3名、ワークセンター花音に2名の新しい仲間を迎えました。新入所者のみんなは、ピシッとスーツを身にまとい、社会人として勇ましい表情で式へと臨んでくれました。

式では、支援学校の先生方からのお祝いメッセージ、花束贈呈、野田川共同作業所自治会長からのお祝いの言葉があり、新入所者一人ひとりからも力強いあいさつをしていただきました。

ご家族のみなさんも我が子の晴れ舞台をご覧になり、心強く感じられたのではないのでしょうか。エリアの中で働く場所が、自分達の夢の実現を目指し、これからも頑張っていきたいと思います!



悲惨な事件を繰り返さないために大切なこと

きょうさん 全国理事
峰山共同作業所

管理者 山口 高志

2016年7月26日、神奈川県相模原市の津久井やまゆり園に侵入し、重度障害者19名を殺害、職員を含む26名に重軽傷を負わせた植松聖被告の死刑判決が3月16日横浜地裁にて下されました。

その後、彼自身が「控訴はしない」と言っていたとおり上訴権を行使することなく期日を迎え死刑が確定。戦後最悪の殺人事件である「やまゆり園事件」は、形の上では幕を下ろすこととなりました。

しかし、重度障害者（意思疎通のできない者）を心失者（彼の造語）と呼び、生きる価値は無い、不幸しか作らない、安楽死させるべきと断言し最後まで変わることもなかった彼のその歪んだ考えはどのようなに形成されていったのか、裁判では、その背景を含めて明らかにされることはありませんでした。

また、決して植松死刑囚という一人の特殊な考えを持った者が起こした事件ではないのでは？と思えるようなSNSなどでの植松死刑囚賛美の声も多く、このまま事件が風化してしまえば、障害者への偏見や差別から、悲惨な事件が繰り返されるのではないかと思わ

ざるを得ません。

事件の報道や裁判の中で、殆どの被害者が匿名であったことも、わが国における障害者の立場を如実に表しているように思います。

人間の意識形成には環境が大きく作用します。

♪ラララ笑顔が素敵なおまえがいたから♪一緒にここまで生きてこられた ラララ笑顔が素敵なおまえがいたから♪一緒にいつまでも歩き続ける♪

突然ですが、野田川共同作業所の家族（母親）の方の手記をもとに作られたオリジナルソング「一緒にいつまでも」の一節です。私たちは、障害のある人が安心して暮らせる地域をめざし、障害のある人の素敵な笑顔に秘められた夢や願い、家族の切実な思いを地域へ届けてきました。これからも、一人でも多くの方に仲間の笑顔を届け、共感の輪を広げ続けることが大切です。



自分の身体の未来予想図

すまいる

支援員 松本 隆子



2月15日、
泉珠希さんを招いて、新感覚のエクササイズを教わりました。スローエアロビックとは、エアロビックを誰もが気持ちよくおこなえるようにした新感覚のエクササイズで、軽い運動で脳を活性化させ中高年齢層の健康増進や認知症予防、働く人の身体の調子を整える効果があるとされています。

大泉さんは健康運動実践指導者として、京都府北部を中心に現在は「健康寿命を延ばそう！」を目的に幅広く活動されています。

今回、すまいるでの取り組みには、利用者20名、職員5名が参加しました。先生の掛け声と曲が始まると自然に身体が動く利用者が多く、リズムにのりながら笑顔も出てきました。

ある円背傾向の利用者は昼休みのラジオ体操では背筋・腰・腕をしつかりと伸ばすことが難しく、意識が向かないようです。その方

の円背は、筋力低下や腹部の圧迫につながり、便秘、関節へのストレスなどを引き起こすので、背中や腕を伸ばしてもらうことができれどと思っていました。その日には、約1時間の間休むことなく身体を動かしておられ、日中作業時には驚かされました。

筋肉に何も対策をしななければ、毎年徐々に減っていくといわれています。一定量の筋肉がきちんと保持できる生活を送ることは、体の抗酸化力を高めメタボの改善にもつながるそうです。今からでも遅くはありません。生活習慣を考え、将来の自分の、そして利用者の身体の未来予想図を描いてみてください。



リズムに乗りながらー！

月刊誌「みんなのねがい」労働実践の連載執筆を得て

法人設立40周年企画
実践レポート作成責任者

みやづ作業所
管理者 佐野 恵理子

全国障害者問題研究会「みんなのねがい」編集部より2019年度10月号から3月号によさのうみ福祉会の労働実践の執筆依頼があり、法人40周年の節目によさのうみ福祉会の『働く』実践をまとめる機会と位置付け、執筆することとなりました。

執筆に向けて5つの事業所から主任など実践の中心的な役割を果たしている職員を委員として『働く』レポート検討・作成委員会を立ち上げました。この委員会の目的としては「みんなのねがい」に寄稿することはもちろん、原稿の論議や学習会を通して学び合う人材育成の場としました。昨年3月から12月にかけて9回の委員会を開催し、5事業所からの労働を支える実践と連載のまとめの原稿を検討しました。最終回のまとめを検討する委員会には鈴木勉佛教大学教授をお招きし、障害のある人の労働についての課題などを学び、助言もいただきました。

連載のタイトルを『働く 生きる 私らしく from よさのうみ』とし、

10月号「仲間の変化をみつめて」(つむぎ)、11月号「お金で生活は変わる! 望む暮らしをめざして」(峰山共同作業所)、12月号「働くことは、みんなとつながること」(みやづ作業所) 1月号「一般就労をめざす利用者とともに」(リフレかやの里)、2月号「自分を受け入れて自分を生きる」(こまち)、3月号「働くことは自分らしく豊かに生きること」(佐野)と6回の寄稿を無事終えることができました。編集部の方からは「仲間を真ん中にして働くことについて考え合える職員集団の強さを改めて感じた。」「工賃や給料の意味、仲間と共に働くなど障害のある人たちの働くことについて考えることができた。」などの感想が寄せられました。



工賃アップを目指し、生活を豊かに

2018年4月から京都府より委託を受け京都府峰山総合庁舎と京都府丹後保健所の清掃作業に取り組みることとなりました。作業所の時給が130円に対して清掃作業は時給400円と4倍近くになるため、雅弘さんは「工賃が増えたら好きなのが買える!」と張りきって希望されました。

精神障害があっても働きたい

雅弘さん(仮名58歳)は、高校卒業後一般就労していましたが、34歳ごろに統合失調症を発症し、自宅で過ごすようになり、家族のすすめで作業所に入所したのが51歳の時でした。

家庭は認知症を患う母と、統合失調症のある兄の3人で、収入は母の年金と兄の特別障害者手当、作業所の工賃のみで、生活は非常に苦しい状況です。雅弘さんも障害者年金の申請を希望しましたが、精神科の初診日のカルテが保管されておらず、受給できませんでした。

作業所に通所するようになった雅弘さんは、いろいろな作業に取り組みましたが作業所の工賃では、好きなタバコも1日6本しか吸えず、お米以外の食材を買うことすらできませんでした。

11月号ダイジ
エスト版
「お金で生活は変わる!」
「望む暮らしをめざして」

峰山共同作業所
主任 引野 充朗

清掃作業は、庁舎のすべてのごみ回収、10ヶ所のトイレ掃除など、かなりの重労働です。それでも雅弘さんは、精神的に少ししんどい時でも、休むことなく懸命に清掃作業をされました。

清掃作業に行くようになり、雅弘さんの生活は大きく変わりました。工賃が倍近くになり、今まで我慢していたタバコは自分の思うように吸えるようになり、大好きな英語の本も買うことができるようになり、趣味に費やす時間も増えました。

生活の変化が心のゆとりに

工賃が上がったことで暮らしが向上すると、心にも変化が出てきました。清掃作業に自信と誇りを持って取り組み、体調もよくなりました。徐々には信頼されてほかの人のために働く、社会のなかで必要とされる存在という自覚が生まれました。たかがお金、されどお金でお金が暮らしや心の豊かさにつながることを実感しました。

しかし、経済的に雅弘さんが満足できる生活にはまだ至っていません。生活環境の向上と心の安定をめざし、雅弘さんの望む暮らしを実現できるよう、これからも一緒に考えていきたいです。

より良い支援につながる「個別支援計画」をめざって

個別支援計画定着・検証会議責任者
障害者就業・生活支援センターこまち
管理者 石塚寿幸

障害福祉サービスを利用される方には、事業所に配置されているサービス管理責任者（サビ管）が作成する『個別支援計画書』が必要になります。『個別支援計画書』とは、利用される方の想いや願いに基づいた「支援目標」や「支援内容」が記載された計画書のことです。

一昨年の11月、法人内に設置した「個別支援計画作成諮問会議」から、従来の作成方法を見直し、より良い支援に向けた取り組み方の提案をおこない、全サビ管に伝達研修をおこないました。昨年度は「個別支援計画定着・検証会議」を設置し、私たちの支援現場で「計画」と「実践」とが連動する計画作成と方法を、継続して取り組むために「支援員向け研修」と「サビ管向け研修」を各2回ずつ実施しました。

より良い支援のツールとして

支援員、サビ管の別なく、記録する時間の確保の難しさ、記載する内容がこれで良いのかと迷うこと、また、サビ管からは、その一方で管理者や主任業務があり、計



各グループの意見の報告

画作成のための時間確保の困難さが出されると共に、利用者にとって分かりやすい計画書にすることや、計画の内容を職員間で共有し支援に当たることの大切さが出されました。一人ひとりの利用者のことは、間近で接している支援員が一番の理解者であることと、支援員一人ひとりの支援の成果が、より良い支援に繋がることであると伝えました。

個別支援計画には「より良い支援をめざす」ツールとしての活用が求められており、今後も継続した研修が必要だと感じています。

よさのうみ福祉会では職員の福利厚生の一環としてサークル活動を奨励しています。今回紹介するのは毎月定例で活動している「きもの着よう会」です。

きもの着よう会「あざみ」

「きものが好き」「きものを着たい」発足して三年目」

現在会員九名、年齢は三十代から七十代と幅広い構成。きものがない、一人じゃ着られない、きもの着て何するん？こんな悩みを解決して楽しもうというのが「あざみ」です。毎月1回、「前結び」着付けの講師をおよびしてお稽古をしています。普段着用に締める細帯や、フォーマルに締める帯の結び方の基本や変わり結びなど、一人できれいに結べるよう繰り返し練習していきます。最近は習得した会員が講師役になったり、人に着せ付ける練習もしています。きものに関するおしゃべりも楽しく、いろいろな豆知識が聞けるのもおもしろいです。

お稽古後は着物で食事に行ったり、掘り出し物を見つけない「花鈴」へ行くこともあります。四月はリフレで花見とバイキング、十月は丹後きものまつり（橋立）に参加するのが恒例行事。福祉

京丹後市障害者相談支援事業所 相談支援専門員 中西恵子
会職員大親睦会で帯結びの実演披露をしたこともあります。活動の様子は会報「あざみ通信」を作成し、発行を心待ちにしてください。の方にお届けしています。



きものまつり in 天橋立に参加



変わり結びもこんなに上手にできました。

介護の専門家としておもしろい

パートや常勤臨時職員の時から数えると、気が付けばよさのうみ福祉会で働かせてもらうようになって22年になるつとめています。初めは宮津共同作業所の支援員をしていましたが、今から18年前、『障害者生活支援センター結』の立ち上げとほぼ同時にホームヘルパーとして着任することになりました。

当時は丹後圏域に男性ヘルパーがほとんどいない時代でしたが、高

齢者福祉と違い障害者福祉は若くして中途障害から寝たきりとなつた方もおられたため、同性ヘルパーの希望を持っている方にはとても喜んでいただけました。

訪問先では難病のため在宅で過ごす方もおられ、施設支援では経験のできないこともたくさんあります。例えば訪問看護師さんと一緒に支援をすることでほんの少しですが医療の事を知ることができたり、調理や掃除、家事のコツなど学ぶ機会が持てたり、それまでの生活では知ることができなかったことを多く学びました。

リレー随想



ヘルパーステーション結
サービス提供責任者 志

事業所だけでない、地域ぐるみでアプローチしなければいけない課題だと思っています。

今から20年前、作業所に勤務している時は「接客が苦手な自分は絶対ヘルパーはできない」と思っていました。

た。それから数年後、できないと思っていたヘルパーとなり、必死にやってきた18年。これからの10年は、新しい課題に向かうため今までの常識に捕らわれないヘルパーの役割が求められるのではないのでしょうか。

今回は

みねやま作業所

主任 岡田亜希子です。

今月は事業所の仲間を紹介します



廣野 ちづるさん

事業所名 夢織りの郷つむぎ

私の性格

几帳面な一面もあり、いつも周りの仲間のことを気にかけるやさしい性格。愛嬌があり、人を和ませるのが得意です。家族思いで買ひ物が大好きです！

ひとことコメント

美味しいものの食べ歩き♪家族の方からのメッセージ
笑顔が一番のちづるさん
マイペースです。毎日笑顔を見てほっこりさせてもらっています。いつまでも元気でいてほしいと思います。
ちいち大好きです。父・母より



松本 豊彦さん

事業所名 夢織りの郷いきいき

私の性格

目と目が合うとじーつと見つめ、手を差し出すときゆるーつとにぎります。誰かと関わるのが好きです。

ひとことコメント

車に乗ることが好きで、毎日ダンボール回収に行っています。もっとドライブや喫茶店に行けたらいいなあ
家族の方からのメッセージ
一日一日を元気で過ごせますように

ご寄付御礼

みなさまからのご寄付、誠にありがとうございます。
2020年2月18日〜2020年4月17日（順不同・敬称略）

杉本麻衣子 堀井弘一
荻野和代 西垣三衛子
戸田幸弘 玉岡泰久
櫻井健治 山本節夫
小牧みゆき 藤原さつ紀
平井弘美 浦島久美子
霜尾充範 田中祇子
田中郁子 日下部みはる
西原勇介

夢織りの郷家族会代表 西原俊朗
医療法人社団 山吹会 理事長 井上晋吾
峰山共同作業所・みねやま作業所・ゆうゆう作業所・ろむを支える会 会長 堀江正己
いきいき家族会
その他匿名でもたくさんのご寄付をいただいております。

新規採用正規職員紹介



おの え かずま

尾上 数馬

- ◆所属
障害者就業・生活支援センターこまち
- ◆これまでの略歴
2019年12月まで紳士服製造業
- ◆趣味、好きなこと
洋服作り、フライフィッシング
- ◆抱負/障害のあるなしにかかわらず、
一人一人の充実した人生に寄与したい。



むぐるま りょうた

六車 良太

- ◆所属
夢織りの郷 つむぎ
- ◆これまでの略歴
ホテルサービス業。全国45府県で働きました。
- ◆趣味、好きなこと
釣り、シュノーケル、ダイビング
- ◆抱負/皆様のチカラになれるよう
頑張ります。



す どう ゆたか

周藤 裕

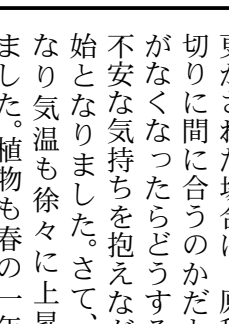
- ◆所属
夢織りの郷 つむぎ
- ◆これまでの略歴
岩手県の地方公務員
- ◆趣味、好きなこと
旅行、爬虫類飼育
- ◆抱負/元気づけようがんばります。



さら き な お こ

皿木 奈緒子

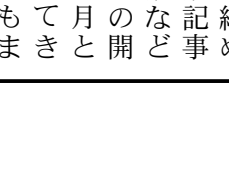
- ◆所属
ワークセンター 花音
- ◆これまでの略歴
ゆうゆう作業所の臨時職員として働いていました。
- ◆趣味、好きなこと
有酸素運動、温泉(サウナ)
- ◆抱負/体力、知力の衰えを感じる今、適切な
確かな一歩に努める



ばん ば やよい

番場 弥生

- ◆所属
みねやま作業所
- ◆これまでの略歴
みねやま作業所の臨時職員として働いていました。
- ◆趣味、好きなこと
毎日音楽♪、ときどき手芸、観劇
- ◆抱負/仲間の「思い」に寄り添えるよう、
よりいっそう努めたいです。



ばん ば やよい

番場 弥生

- ◆所属
みねやま作業所
- ◆これまでの略歴
みねやま作業所の臨時職員として働いていました。
- ◆趣味、好きなこと
毎日音楽♪、ときどき手芸、観劇
- ◆抱負/仲間の「思い」に寄り添えるよう、
よりいっそう努めたいです。

編集後記

今月号は二〇二〇年度最初の福祉よさのうみの発行となります。今回は新年度ということ、よさのうみ福祉会の各作業所で行われる入所式や新人紹介のコーナーがありますが、新型コロナウイルスの影響で予定変更がされた場合に、原稿の締め切り間に合うのかどうか記事がなくなったらどうするかなど不安な気持ちを抱えながらの開始となりました。さて、5月となり気温も徐々に上昇してきました。植物も春の一年草もまだ元気。さらに生育適温が高めの草花も徐々に咲き出して、庭に彩りを加えていきます。園芸ショップやホームセンターなどには、観賞用の花ばかりでなく、ハーブや野菜苗も充実してくるこの季節に植物好きにとっては心躍る季節となってきました。私の家には数多くの植物があります。その多くはネットで購入した植物ですが、年々大きく育っています。コンテナに植物を入れたり庭に植物を植えたりしている時のゆっくりとした時間は癒されているような気がします。土いじりは、精神的なケア効果があるという話もあり趣味の一つとしてはいいのかなと自分では思っています。(く)